

## 1990年1月1日～2020年11月15日の間に 当科において濾胞性リンパ腫と診断された方及びご家族の方へ

### 「濾胞性リンパ腫から形質転換した aggressive リンパ腫におけるスフィンゴシン-1 リン 酸受容体 1 の発現の意義」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

|       |             |     |      |
|-------|-------------|-----|------|
| 研究責任者 | 川崎医科大学血液内科学 | 講師  | 清水里紗 |
| 研究分担者 | 川崎医科大学血液内科学 | 教授  | 和田秀穂 |
|       | 川崎医科大学血液内科学 | 教授  | 近藤英生 |
|       | 川崎医科大学血液内科学 | 准教授 | 近藤敏範 |
|       | 川崎医科大学血液内科学 | 講師  | 竹内麻子 |
|       | 川崎医科大学血液内科学 | 講師  | 福田寛文 |

#### 1. 研究の概要

濾胞性リンパ腫は非ホジキンリンパ腫であり、悪性度の低いリンパ腫です。18～28%の方が、悪性度の高いびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫へ形質転換する可能性があり、予後不良とされていますが、その原因は不明な点が多くどういった方が形質転換するのかかわかっていません。

近年 Sphingosine-1-phosphate (S1P) /S1P receptor1(S1PR1)シグナル伝達は腫瘍の悪性度や、発生などに関与することが示されています。S1PR1 および S1PR2 シグナル経路の異常が濾胞性リンパ腫の形質転換に関与しているとの報告もあります。本研究では形質転換前後の組織における S1PR1、S1PR2 の発現について検討し、S1PR1 および S1PR2 が形質転換を予測するマーカーとなりうるかどうかを検討します。

#### 2. 研究の方法

##### 1) 研究対象者

1990年1月1日～2020年11月15日の間に当科において濾胞性リンパ腫と診断された方を対象にします。

##### 2) 研究期間

2018年10月15日～2024年12月31日

##### 3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において法性リンパ腫と診断された方で、研究者が診療情報をもとに形質転換に関与するデータを選び、形質転換前後の組織における S1PR1 および S1PR2 やその他リンパ腫の悪性度に関与する分子生物学的指標に関する分析を行い、形質転換の起こる仕組みについて調べます。

#### 4) 使用する試料・情報の種類

情報：年齢、性別、家族歴、病歴、治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

試料：手術で摘出した組織で病院病理部に保管されているパラフィン包埋切片

#### 5) 試料・情報の保存

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学血液内科学教室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施設可能な保管庫に保存します。

#### 6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年9月30日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

#### < 問い合わせ・連絡先 >

川崎医科大学附属病院 血液内科

氏名：清水里紗

電話：086-462-1111 内線 27513（平日：8時30分～16時30分）

ファックス：086-464-1194

E-mail：hematol@med.kawasaki-m.ac.jp

#### 3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。